

1. 学校名 信州大学教育学部附属松本小学校 4 年生 (35 名)

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

「よりよい食」から考える災害時における「食」

(2) 目 標

・自分にとってのよりよい「食」とは何か、場面に応じて食材を選んだり、必要な食事を選択したりすることができる。

・災害時において、「よりよい選択」をすることの大切さに気付き、自分でもやっという心情を育む。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

多様性 (多種多様な現象が起きていること)

公平性 (一人ひとりを大切に)

相互性 (関わりあっている)

連携性 (互いに連携・協力すること)

有限性 (限りがある)

責任制 (責任を持って)

その他 ( )

②育成する資質・能力

批判的に考える力

他者と協力する力

未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs



3 すべての人に健康と福祉を  
10 人や国の不平等をなくそう

(5) 探究課題・活動実践の概要

探究課題: 「よりよい選択とは何か」

活動実践の概要

・総合的な学習の時間を使った「食育」の学習と社会科「自然災害からくらしを守る」との接点を見だし、災害時における「食」について考えていく。

3. 流れ (指導計画の概略)

① 食育 (給食を見直す、食事バランスガイドを使って一日の食事を考える、給食の献立を立てる)

② 社会科 (デジタルアーカイブの視聴を通して実相を知る、災害における事前と事後とでどのような備えがあればよいかを考える、ライフラインが止まったとき、何をどう食べるかを考える)

③ 災害時+食 (パッキング) →災害時であるからこそ、栄養バランスがとれた食事、おいしい食事をとることの必要性について考える

4. 効果・反応・所感

子供たちにとって身近ではない「災害」を、身近な「食」と関連させながら考えることのできる環境を設定することで、災害時、「こういうことを知っていれば選択の幅が広がる」、「どんな備えをしておけば、1 人でも何とか生き抜ける」等といった、その子なりの必要感をもった防災学習に繋がったと考える。

5. 指導方法・体制の工夫 (協力者や資源)

① 信州大学 榊原先生、沖嶋先生

② 大学院生 H さん (栄養教諭の資格あり)